

平成29年度

# 信州大学男女共同参画セミナー・FD研修を 開催しました

平成30年1月29日 東京大学大学院総合文化研究科・瀬地山角教授を講師にお迎えし、「ジェンダーで考えるあなたの未来～2億円の宝くじを必ず当てる方法!～」と題し、講演いただきました。

講演は各キャンパスに配信され、予想を上回る162名の参加があり、ユーモアあふれるお話に思わず笑いながらも、自身のキャリアについて考えさせられる時間となりました。

瀬地山先生は、「植林をする林業者」と「植林をしない林業者」を例に挙げ、男女共同参画に取り組む意義について話されました。



植林をしなければどんどん木を伐採し、材木を安く提供できる。植林をすると手間の分、コストがかかる。

では安い方ばかりを買えばいいのか？

→30年後、山には木がなくなり、大雨が降ると大災害に！

女性を雇用するよりも、バックに「子育てや介護」のない男性を雇用した方がコストは押さえられ、仕事もはかどるかもしれないが、数十年後を考えると…？

→女性のバックにばかり育児や介護があるのではなく、男性のバックにも当然育児や介護があるのだという認識、男性のワークライフバランスが重要となる！

この点は、大学における男女共同参画を進めるための意識改革に重要な視点であると感じました。

また、共働き世帯の男性の家事関連時間の男女の差（週平均一日男性46分、女性4時間54分：社会生活基本調査、2016）から、男性が家事をすることで、その分女性が正社員で働き続けられれば「2億円の宝くじ」が当たったも同然とし、男性の背負う負担も減ることから一頭立て馬車から二頭立て馬車への転換を勧められました。

学生に対しては、就職のときには「就職四季報女子版」に掲載されている「女性の既婚率や勤続年数」を参考にしようアドバイスがあり、既婚の女性が、長く働き続けられる職場というのは男性にとっても働きやすい環境と言える説明されました。

今回のセミナーには50名の学生の参加があり、将来のキャリアビジョンを具体的に考えるよい機会となりました。また、当該学生のアンケート結果からも大変意義あるものであったことが伝わってきました。

## アンケートから（抜粋）

- 男性が家事・育児を手伝うことの心理的・経済的メリットを数値で分かりやすく説得力のある説明で話されていて、とても良い内容でした。（教員）
- ジェンダーについて、意識していなかったところで男女差別が表れていることに気づいた。子育ては女性がするのが当たり前、という風潮もあるけれど、決してそんなことはなく、パートナーと自分にとって一番良い形を考えたい。（学生）



本セミナーは「外務省シャインウィークス」のイベントとして登録されました。

平成29年度

2017.9.25 ~ 2017.10.9 実施

# 男女共同参画アンケート結果について

これまで平成22年度、25年度にアンケートを実施しましたが、今回は現在ある支援制度の有用性や、継続の必要性を把握し、新たな支援制度について検討することを目的に実施しました。

## 回答数

教員向けアンケート……336名(回答率18.4%)  
職員向けアンケート……524名(回答率21.6%)

アンケートへのご協力、ありがとうございました。



あなたは信州大学が、仕事（研究）と子育て・介護の両立がしやすい環境だと思いますか。

|              | 教員          |            | 常勤職員        |             | 非常勤職員      |             | (%) |
|--------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----|
|              | 男性<br>(264) | 女性<br>(72) | 男性<br>(203) | 女性<br>(135) | 男性<br>(29) | 女性<br>(157) |     |
| 両立しやすい       | 7.2         | 5.5        | 13.8        | 11.9        | 24.1       | 17.2        |     |
| どちらかといえばしやすい | 47.3        | 43.1       | 58.6        | 63.0        | 55.2       | 59.2        |     |
| どちらかといえばしにくい | 31.1        | 43.1       | 21.2        | 20.7        | 17.2       | 20.4        |     |
| 両立しにくい       | 14.4        | 8.3        | 6.4         | 4.4         | 3.5        | 3.2         |     |



仕事（研究）と自身の生活のバランスはとれていますか？

|            | 教員          |            | 常勤職員        |             | 非常勤職員      |             | (%) |
|------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----|
|            | 男性<br>(264) | 女性<br>(72) | 男性<br>(203) | 女性<br>(135) | 男性<br>(29) | 女性<br>(157) |     |
| かなりとれている   | 11.4        | 6.9        | 17.3        | 13.3        | 31.0       | 22.9        |     |
| まあまあとれている  | 50.0        | 43.1       | 58.1        | 59.3        | 55.2       | 64.4        |     |
| あまりとれていない  | 29.5        | 36.1       | 19.2        | 21.5        | 10.3       | 10.8        |     |
| まったくとれていない | 9.1         | 13.9       | 5.4         | 5.9         | 3.5        | 1.9         |     |

上記のふたつの質問では教員・職員ともに両立は「まあまあしやすく」、バランスは「まあまあとれている」と回答した比率が最も高いが、教員については両立のしづらさやバランスのとりづらさを感じている比率は職員に比べ高いことがわかります。



あなたは介護の経験がありますか？

比率 (860)

|                |      |     |
|----------------|------|-----|
| 現在、介護している      | 5.8  | (%) |
| これまでに介護したことがある | 9.5  |     |
| 介護したことはない      | 84.7 |     |



あなたが将来的に介護に関わる可能性はどのくらいありますか。

比率 (728)

|                 |      |     |
|-----------------|------|-----|
| 主たる介護者になる可能性がある | 34.1 | (%) |
| 介護に関わる可能性がある    | 40.9 |     |
| 介護に関わる可能性は低い    | 10.2 |     |
| わからない・無回答       | 14.8 |     |



上記の表から、「これまでに介護したことはないが、今後多かれ少なかれ介護に関わる」教職員は多く、介護と仕事の両立に対するサポートの必要性は高まると考えられます。



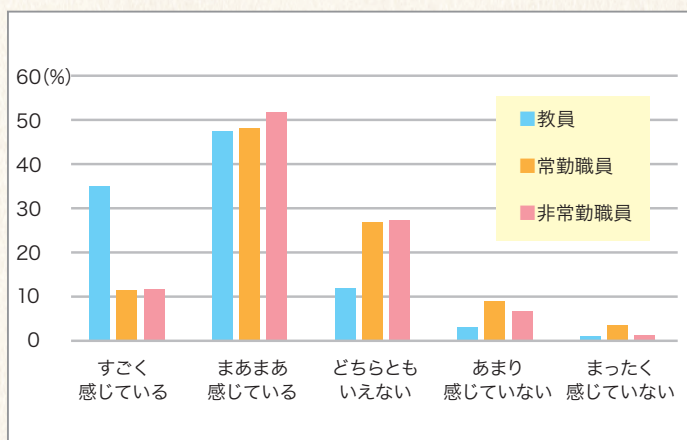
育児に関わる制度・サポートで本学にはどれが必要だと思いますか。(上位3つを掲載しています)

| 教員 (松本キャンパス)     | 教員 (その他キャンパス)      | 常勤職員       | 非常勤職員       |
|------------------|--------------------|------------|-------------|
| 代替要員の雇用          | 休業中に業務を継続できる仕組みづくり | 代替要員の雇用    | 育児休業からの復帰支援 |
| 男性の育休取得促進        | 代替要員の雇用            | 周囲の理解促進    | 代替要員の雇用     |
| 育児を考慮に入れた業績評価の確立 | 周囲の理解促進            | 夕方からの会議の廃止 | 周囲の理解促進     |

※男性・女性とでは必要と感じるサポートは違いますが、ここでは合算して多い順に掲載しています。



現在の仕事(研究)にやりがいを感じていますか？



育児や介護に必要なサポートとして上記に挙げた意見がありますが、教員・職員ともにやりがいを感じている比率は高い結果となっています。やりがいを感じるために必要な要素としては「職場環境・業務内容」などの充実が求められていますが、教員の回答では3番目に「健康」が挙げられています。今後もみなさんがやりがい(はたらきがい)をもって働きつづけられるよう、センターとしてもサポートしていきます。

アンケートの詳細はスプレウェブサイトに掲載しています。 <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>



やりがいをもって働くために何が必要であると考えますか。(上位3つを掲載しています)

| 教員   |          |
|------|----------|
| 研究環境 | 75.3 (%) |
| 研究内容 | 69.3     |
| 健康   | 69.3     |

| 常勤職員 |          |
|------|----------|
| 職場環境 | 73.7 (%) |
| 業務内容 | 72.5     |
| 給料   | 63.0     |

| 非常勤職員 |          |
|-------|----------|
| 給料    | 73.7 (%) |
| 業務内容  | 70.4     |
| 職場環境  | 69.9     |

## 介護に関する勉強会の開催について

アンケート結果を受け、センターでは平成30年度に「介護に関する勉強会」を開催します。

様々なライフイベントの中でも、誰にでも起こりうる出来事といえるのが家族の「介護」です。

本学の介護休業は最大186日取得できます。介護を行うのにそれでは短いと思いがちですが、この休業は自らが家族の介護を行うための休業ではなく、介護サービスを利用して仕事と両立するための準備を整えるための期間ととらえるといいでしょう。

一人で抱え込まないこと、また、突然家族に介護が必要となったときに慌てないよう準備しておくことが大切です。

勉強会の内容としては、各自治体で用意している出前講座等を利用し、各キャンパスで開催できればと考えています。希望のあったキャンパスから順次開催していきますので、まずは男女共同参画推進センター(内線811-2150)までお問合せください。

開催日時等の詳細が決まり次第お知らせします。



## ■平成30年度(4-9月期)研究補助者制度の利用者が決定しました

本学の研究者が育児や介護等のライフイベントと研究活動を両立できるよう、平成30年度(4-9月期)も研究補助者制度の利用希望者を募集し、厳正な審査の上、利用者を決定しました。

**選考結果  
利用者 11名  
(女性 11名)**



こんなときはご相談ください

研究補助者制度は原則、年に2回(7月、1月)の募集としておりますが、家族に突発的な介護が必要になった場合など、柔軟に対応しておりますので、男女共同参画推進センターまでご相談ください。

## ■早出遅出勤務の対象となる子の範囲の拡大について

信州大学職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規程等の改正が、1月17日(水)開催の人事制度委員会及び役員会において承認され、平成30年2月1日より施行されました。

旧制度では未就学児を養育する職員のみが「早出遅出勤務」の対象となっておりましたが、新たに小学生等の子を学童保育等に送迎する職員が追加されました。

詳細につきましては、各部署局庶務担当までお問い合わせください。

また、この機会に改めて子育て・介護といったライフイベントの際に利用できる制度についてご確認ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/summary/2017/danjyokyoudo-guide/>



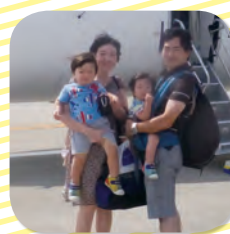
このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

妻も私も附属病院で勤務しており、平日、土曜日(月2回程度)は保育園にお世話になっています。朝は私が送って行き、帰りは妻にお迎えをお願いしています。保育園の前の道は交通量が多く怖いのですが、子供と手を繋いで園まで歩いていく時間はどれだけ忙しくても大事にしています。



のんびり屋で慎重なタイプの長男、活発でやんちゃな次男と性格がまるで違う2人ですが、やはり歳も近いせいやおもちゃの取り合いで毎日のようにけんかをしています。けがをしない程度に見守っていかうと思っています。二人とも働く車と機関車トーマスが大好きで、先日蒸

しばざき たくみ 先生 | 医学部小児医学教室 医員



**家族構成**

妻・長男(3歳)・次男(1歳11か月)

**お子様からの呼ばれ方**

パパ

気機関車に初めて乗った時は大喜びでなかなか帰ろうとくれませんでした。

私と妻どちらも実家が遠方で、祖父母に頼ることができないため、子供の具合が悪いときは病児保育やファミリーサポートを利用しています。風邪を引かないと体も強くなるとも思いますが、元気に寒い冬を乗り切ってほしいと思っています。



今回はこの方

上條 泰先生

医学部救命集中治療医学教室 助教(診療)

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1  
内線 811-2150, 811-2140  
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314  
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室  
〒380-8544  
長野市西長野 6-口  
内線 831-4018

工学部分室  
〒380-8533  
長野市若里 4-17-1  
内線 821-5693

農学部分室  
〒399-4598  
上伊那郡南箕輪村 8304  
内線 851-3120

雑学部分室  
〒386-8567  
上田市常田 3-15-1  
内線 841-5358



スプレ

信州大学 スプレ

検索